



Novčić Sreće
Sreće a novca Jerko Sorić



イエルコ・ソリッチ 監督作品

幸福の硬貨

プーラ映画祭79年度グラン・プリ、モスクワ映画祭 金賞受賞
モスクワ映画祭 金賞受賞

Novčić Sreće
Sreće a novca Jerko Sorić

人間から人間への愛、
これはおそらく私たちに課せられた
最も困難なこと、究極のことであり、
最高の試練、最後の試験です

詩人 ライナー・マリア・リルケ

Rainer Maria Rilke

「第5の悲歌」

天使よ! 私たちには、まだ知られていない廣場が、どこかにあるのではないのでしょうか?

そこでは、この世界では遂に愛という曲芸に成功することのなかった2人が得も言わぬ敷物の上で、その胸の踊りの思いきった、仰ぎ見るような形姿をその法税の党を疾く足場を失い、ただお互いを宙で支え合うしかない梯子を戦きつつ披露するのではないのでしょうか? 彼らはきつともう失敗はしないでしよう、いつしか2人を取り囲み無言のまま見つめていた、数多の死者を前にして。

その時こそ、死者たちは、鎧々が最後まで捨てずにおいた、いつも隠し持っていた、私たちの未だ見たこともない永遠に通用する幸福の硬貨を取り出して、一斉に投げ与えるのではないのでしょうか?

再び静けさを取り戻した敷物の上になって今や眞の微笑みを浮かべる、その戀人たちに向けて

リルケは、1875年12月4日 - 1926年12月29日を生きた、オーストリアの詩人であり作家だった。

シュテファン・ゲオルゲ、フーゴ・フォン・ホーフマンスタールとともに時代を代表するドイツ語詩人として知られている。本作のラストシーンでは、戦争で破壊し盡くされた町並みを背景にリルケの詩「ドゥイノの悲歌」が引用されながら映画の幕を閉じる。『ドゥイノの悲歌』は、リルケの連作詩。1922年に完成。それぞれ70から100行程度の詩行をもつ10の詩からなる作品で、リルケ晩年の代表作である。

この部分は脚本の段階から組み込まれており、ソリッチは共同脚本家のジュロヴィッチと詩を加えることで人生きていくうえでの業、愛、無力さ、そして現実世界の皮相さを表現しきったと言える。

製作総指揮 バーナード・T・ウェインスタイン



MARCO

Predrag Golubovic

プレドラグ・ゴルボビッチ

1957年 ユーゴスラビアに生まれる。
11歳の時に父の知り合いが主催して劇団に入団する。
以後数々の舞台で独特の雰囲気と演技力によって、多くの作品に参加している。
俳優としては、デビュー作の「僕じゃダメですか?」1968年ヴィルコ・リフトフスキー監督では、年上に戀する純朴な高校生役を見事に演じきり、注目を集めた。
これまで俳優として26本の映画に出演。ソリッチと初めて組んだのは、71年「逃亡する女」以来だ。
本作「幸福の硬貨」では、キャリアがある人が集まったオーディションの中、見事マルコ役を射止めた。
激動の時代を生きるユーゴスラビアの青年を見事に演じ切って見せた。
「脚本を読んだ時から素晴らしい作品になることは解っていました。「ダルマチアの朝日」を撮ったソリッチ監督なら、必ず良いものが出来上がるだろうと。マルコという役を演じるのはとても難しかったです。物語の途中でマルコは、怒りに驅られて幼馴染であるイヴァンを殺してしまう。しかし、実は自分の愛する人を同じように愛し、守ってくれた人だったのちに知ることになる。普段、僕たちが生活する中では考えられない出来事だ。それゆえ、まず自分がその場にいたらどう思うだろう。という所からマルコという青年と共通する部分を見つけていった。難しい役だったが、ソリッチ監督が撮影中、経験の少ない僕に丁寧に説明をしていただき、マルコという役に成り切ることが出来たと思う。」

オーソン・コシナ

1962年 ユーゴスラビア生まれ
幼い頃から俳優である母の影響もあり、演技には觸れていた。
9歳の時に、地元の小さな劇団に入団する。しかし高校に入學する際に俳優を辞めてしまう。
普通科高校に入學し、勉學に勵んでいたが、ソリッチが新作のオーディションを開催すると聞きつけ、ソリッチ監督作品のファンだった彼女はダメ元でオーディションに参加。本作「幸福の硬貨」が映画デビュー作である。戦時下でも強く生きる純朴で純粋なセルビア人少女を見事に体現して見せた。
「ソリッチ監督の作品でデビューを飾ることができて光榮に思います。幼い頃から演技をしてきましたが、しばらく俳優業を離れていた為、正直すごく不安でした。無事撮り切ることが出来、こうやって皆さんに見てもらえてとても嬉しいです。ナタリアとの距離を詰め、自分に落とし込んで行くのがとにかく難しかったです。だけと彼女と共通する部分もあり、少しずつ近づいていけたと思います。ナタリアは、純朴で優しい性格とは裏腹にとても強い子です。困っている人がいたら何も考えず助け、自分を犠牲にし、相手の幸せを願います。戦時中セルビア人が虐殺されていく中、家族までも殺されてしまいます。だけと彼女は、生きようとして前を見續けています。彼女は、本作のテーマの一つでもある「生き續けること」を体現している人物だと感じていました。最後に希望を失ったマルコの手元にある金貨は、彼女自身の思いが込められたものなのだと思います」

NATALIA

Orson Cosina



大澤忠男、1970年代後半の撮影。

分断、對立、再会 後世に残すべき愛の名作

＜映画批評家＞ **大澤 忠男**

大澤忠男、1970年代後半の撮影。

「人民大衆は、国家を裏切ったがゆえに君主制を嫌悪し、侵略に對して祖国防衛手段をどらなかったがゆえに王朝政府を不信視している。さらに大衆は、ヒトラーとムッソリーニに奉仕している第五列の苛酷な暴虐を激しく憎んでいる。このような大衆の感覺と意向とが人民総決起の性格を決定するだろう。ナチ協力派の第五列に對する大衆の憎悪感ほ、舊体制の權威を打破して、これに代る新しい人民政府を樹立する願望にと燃えあがるだろう」1941年4月、ユーゴ共産党書記長ヨシブ・ブロズ・チトーが同党中央委員総会で明らかにした情勢分析の内容である。「第一次世界大戦でオーストリア・ハンガリー帝国が崩壊した結果、パリ平和條約はその数條をさいて南スラブ民族統合の方策を打ち出した。少数民族分立の歴史にあえいできたセルビア、クロアチア、スロベニア、モンテネグロ、ボスニアなをバルカン半島南部地域にユーゴスラビア王国が誕生したのは、1918年12月1日のことだった。「新生ユーゴを支配した国王を、アレクサンダル・カラジョルジュビッチという。この王朝は全権力を掌握し、強力な中央集権体制をとった。かつて五百年にわたったトルコ帝国の壓政をはねかえしたセルビア民族主義をよびどころとして、大セルビア・ブルジョワジーの威信をひっさげて君臨した支配体制だったから、憲法上の諸權利を他民族に保障せず、少数民族の不滿 を内包したまま暗雲をはらむ船出だった。

ナチス・ドイツの誕生によるファシズムの危険が全欧州で認識を深め始めた37、8年、ユーゴ政界でも親ファシスト派の勢力が急増し、親独色濃厚な内閣が公然とユーゴの領土保全をヒトラーの庇護下に確保しようと国民に呼びかけていた。国家存亡の危機を知った亡命中のユーゴ共産党幹部は續々歸国しはじめた。チトーが秘密裏にソ連から歸国し、反動政府の危険な動向に對處して人民戦線の結成を提唱したのは1937年であった。

ピーター皇太子を骨抜きにして攝政政治の中樞に座っていたスタヤディ

ノビッチ首相は、第一次大戦後のバルカン半島の平和維持を目的としてチェコ、ルーマニア、ユーゴ三国間で締結していたバルカン小協箇」と、ルーマニア、ギリシャ、トルコ三国とのあいだで結んでいた「バルカン協箇」を脱退、大きく樞軸側に接近した。ツベトコビッチ＝マチュェク連立政権が登場した。内閣はついに41年3月25日ウィーンで日独伊軸同盟参加評定書に調印、正式にローマ＝ベルリン樞軸に参加した。ヒトラーによるバルカン半島の無血掌握は、ハンガリー、ブルガリアに加えてユーゴが樞軸側に轉じたことから完全無欠の形で完成したのだった。ヒトラーは同年5月15日までにソ連侵攻作戦の準備を完了するという「バルパロッサ計画」を練りあげていた。バルカンを平定しておけば對英戦争終 結以前にソ連を叩きのめすのは可能と判断した重要な作戦計画であった。しかし、わずか2日後の3月27日、ヒトラーの綿密な作戦に破たんを呼び込んだ 運命的な事件が発生した。空軍総司令官で前參謀総長のシモビッチ將軍が若手將校を率いてクーデターを起こしたのだ。

シモビッチ將軍は攝政政府を追放した。ピーター皇が即位して国王の地位に就いた。同將軍を首班と 新政権は三国樞軸協約、調印を無効と宣言し、協約の批准を拒否した。ヒトラーの最高司令部は断撃を受けた。即日司令官会議を召集し、ユーゴ侵攻を決定した。

1941年4月6日早曉を期して、独、伊、ハンガリー、ブルガリア樞軸連合運五十六個師團は、強力な空軍に援護され、ユーゴ国境に殺到した。ピーター王、王朝 指導者は本国を脱出、ロンドンに亡命した。ユーゴ王朝正規軍は数部隊の勇敢な奮戦にもかかわらず撃破された。4月17日、首都ベオグラードで無條件降伏文書に調印した。

樞軸四国はただちにユーゴ全土を分割占領した。ヒトラーは親ナチ派のクロアチア農民党党首アンテ・パベリッチ総裁を首班とし、イタリアの従弟スポレット公を王に戴く王国クロアチア独立国を建国し、日独伊三国樞軸に加入させた。この傀儡国家が組織した軍隊をウスタシャという。強力な裏切り者集團で、ナチに協力、愛国分子彈壓をほしいままにする。一方セルビアではネディッチ將軍首班の軍事政権が占領軍ナチの画策で登場した。ロンドンに亡命したピーター王は、亡命政権を樹立して、ユーゴの正当政府を名乗り、王朝正規軍のドラジャ・ミハイロビッチ大佐を軍需兼海軍大臣に任命した。ミハイロビッチ大佐

をナチ侵略軍に對抗する国内組織チュトニックの総司令官としてセルビアの一角に置き、亡命政権の威嚴を保つのが目的だった。ナチ精銳軍は同年4月27日アツェに入城、予定通りギリシャから英国勢力を一掃した。ドイツはルーマニアのほかユーゴ、ブルガリアを手中に収め、ギリシャをも征服してバルカン一圓をあげてすべて制壓下に置いた。4月13日成立の日ソ中立條約を間に挟んで、ヒトラーがバルパロッサ計画に基き、無警告でソ連領になだれこんだのは6月22日である。ユーゴ共産党は41年のメーデーを期に武装決起した。「労働者階級の前衛に指導された戦闘に参加せよ」という国民宛てのメーデー宣言は、ユーゴの愛国者を ふるい立たせた。地下抵抗組織からパルチザン活動へ。大衆は銃をとり、チトーが指揮する祖国解放戦争に續々結集し始めた。42年、パルチザン兵力は十一万人を数えた。諸戦でチトーが打った手はチュトニックと手を結ぶことだった。長髪を旗印にした王朝正規軍生き残り集團は戦闘能力が高く、強力体制がとれるならば對侵略 軍ゲリラ活動が一層効果をあげうるからだ。パルチザン側の予想をくつがえて、チュトニックは協力を否し、41年11月、にわかにパルチザンに攻撃をしかけてきた。ミハイロビッチは陰險だった。共産党に指導されたパルチザンと共同作戦行動をとるくらいなら共産党と非合法化した前国王の政権にならって、ナチと手を結んだほうがよい。そう考えたのだった。 チュトニックは恐るべき第五列に一変した。そういった時代背景をもとに「幸福の硬貨」は物語が進んで行く。ウスタシャが住民を大量虐殺していたことは、ナチスドイツのユダヤ人虐殺の陰に隠れて意外と知られていない。本作は戦争描寫が殘酷でかつ音楽なせによって詩的に表現される場面が多い。他の批評家の方は常々そういった表現を批判するが、私はテーマの強烈さ、着想の秀拔さ、表現の斬新さ、せの点からみても「幸福の硬貨」は、第1級作品であると言える。

一度は同じ民族と謳ったもの達が民族というくくりでまた殺しあう。殘虐の殺人は殘虐の復習を生みその先に待っているものは、何もない。作品を通してソリッチが描こうとしたものは、多々あるだろうが、私はそういった戦争の後に残る人の無力さをここまで描いた作品は他に無いと思う。音楽を加え表現したことは、切なさを思わせ、最後に崩れた町の中で抱き合

う2人さえもまるで何かの象徴のように感じた。

本作は、そういった象徴的なヒューマニズム的な部分と個人の小さな幸せを願う願望という大きく二つの要素が合わさり、見事にドラマを生み出している。

特に特質すべきは、隨所に見られる誰もが常日頃願っている細やかな幸せを巧みに描き、葛藤としてみせているところだ。

マルコにして、ナタリアにしても、2人で一緒に住んで、平穩な日常を生きたいという小さなもの。將校イヴァンが望んでいたのも、ナタリアとの生活だった。また、村の住民ナダが通報するシーンは、その最たるものと言えるだろう。ナダは別にマルコやナタリアに恨みがあったわけではない。ただ、自分の家族を守りたかっただけなのだ。そこに意地悪な感情は存在しない。現に彼女は、初め彼女ことを隠そうとする。ウスタシャ兵に「もし後々見つければ家族ごと見殺しにする」と言われた時に、ただ愛する夫と1人のまだ3歳にもならない未來ある息子の幸せを願う彼女の氣持ちは変わらざる得ないのだ。ただ、それはマルコ達から見ると「裏切り」に当たるのだ。ソリッチ監督の「映画監督」として尊敬すべきところそこにあると私は思う。ソリッチ監督の作品は、片側から見るとき悪であるが、違う角度からみれば正義であるかもしれない。という哲學とも言うべきものが、全体を通して感じられる。彼の初期の作品ドキュメンタリー作品「今、歩く」もそういったテーマが作品全体を貫いている。主人公は第二次世界大戦時最もドイツ兵を殺したユーゴスラビアから見ればヒーローだが、ドイツ人から見れば殘虐な殺人鬼だ。それはお互いそのように思っていることなのだが、ソリッチはそういった逃げられない生きて行くうえでの責任ともいうべきテーマを觀客に突きつける。今後もイェルコ・ソリッチ監督から目が離せない。



Novčić Sreće

Sreć a novca Jerko Sorić



PRODUCTION NOTE

1997年秋、スタッフと俳優たちは、飛行機を乗り継ぎ、輸送されたさまざまな種類の車両を連れて、ユーゴスラビアのザグレブに降り立った。そこを拠点に、イストラ半島北部に位置する小さな町グロジュニャンで撮影を決行。街中での撮影は爆破や家屋の汚しなども含めて、グロジュニャン村の全面協力のもと制作された。また、危険な山岳地帯での撮影を行ったスタッフは、ユーゴのチトー大統領及び政府の協力がなかったらロケは不成功に終わったという感を強くしたという。

今回の撮影で最も困難を極めたのが、市街戦を再現し、ラストシーンに登場する荒れ果てた街をどのように作るかという事だった。

実際の街を借りての撮影に家屋を破壊するわけにもいかず、スタッフ達は近くに巨大セットを建設。90日間をかけて150万の巨額を投じた。細部にこだわり抜いたセットは、ラストシーンで人の無力さ、戦争の無慈悲で残酷な部分を演出するのに大きな役割を果たしたと言えるだろう。

そのセットは撮影後、街に寄付し、観光名所として使用することにしたようだ。

イェルコ・ソリッチ監督の本作にける想いはとても強く、脚本段階からものすごい修正が加えられ、最終的に撮影する脚本の形になるのに1年近くを費やした。彼は実際に自身が10代の頃に戦争を経験しているため、作品に對して思う所があったようだ。

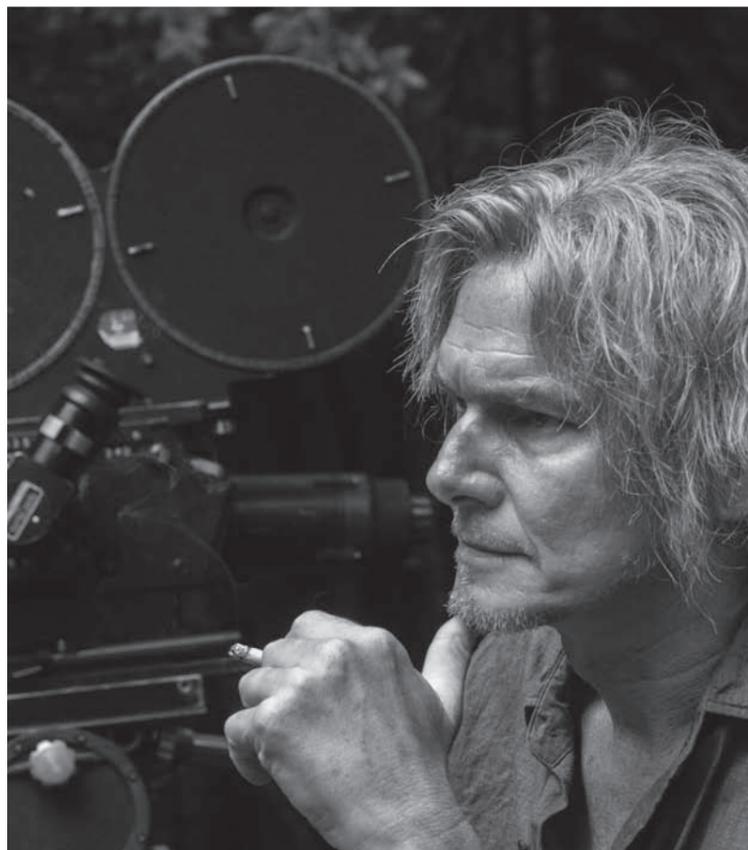
「私はダルマチアの朝日を発表して以降、民族とは何かをずっと考えてきた。1971年に「クロアチアの春」と呼ばれるセルビア人による中央集権に對する抗議行動が発生した時に私は思った。何で人はここまで民族というものに拘るのかと、ただ民族主義の弾圧は、長い目で見れば、セルビアの軋轢を背景に、悪い結果を招くことは目に見えていた。どちらかが優遇されればどちらかが恨みを持つ。その連鎖は止められないのだと感じた瞬間だった。私はクロアチア人というより、ユーゴスラビア人という意識が強いが、みんながそう思っているわけではない。当たり前のことだが、その当たり前のことに私はすごく絶望にも近い感情を持ったのだ。本作「幸福の硬貨」ではクロアチア人とセルビア人の少女の戀を描いたのは、私の一つの小さな願いでもあるのだ(イェルコ・ソリッチ 1978.8/24 インタビュー)」



Novčić Sreće

Sreća a novca Jerko Sorić





「人間は生きること自体を
懸命に、滑稽に
人目に曝し続ける」

監督
イェルコ・ソリッチ

Jerko Sorić

イェルコ・ソリッチは、ユーゴスラビアの代表的な映画監督の1人である。

生まれは、1929年、舊ユーゴスラビア。

クロアチアで教育を終え、ローマの国立映像センターで映画演出法を学ぶ。その後、映画ジャーナリストを経て、ドキュメンタリー映画「今、歩く」(56)で監督デビュー。

長編劇映画デビュー作の「列車」(57)は、プーラ映画祭で金賞を受賞。たちまち東欧圏注目の新人となり、以後精力的に作品を製作している。「幸福の硬貨」は、短編作品も合わせると自身9本目の作品。

本作はソリッチの10代の頃の経験が反映された作品と言えるだろう。自身が子供時代を過ごしたユーゴスラヴィアでは、枢軸国軍の侵略のみならず、それによって噴出した国内の民族紛争の凄惨さが夙に知られており、「幸福の硬貨」にも、その経験や記憶が随所で反映されていると言えるだろう。

65年に製作した「ダルマチアの朝日」も本作と同じバルチザンを題材に描いた作品だが、「ダルマチアの朝日」がリアリズムに徹底した作品だとすると「幸福の硬貨」は、ロマンティズムを徹底した作品である。複雑な政治的背景は、うまく捨象され、壊滅的な世界の中で傷だらけになりながらも、潰えない愛の物語として本作を完成させた。

作品リスト 公開順〈監督作品〉

- 56年 今、歩く……………ドキュメンタリー
- 57年 列車
- 58年 Barricaded……………日本未公開
- 60年 小悪魔&悪魔
- 62年 Marriage Blue……………短編 日本未公開
- 65年 ダルマチアの朝日
- 71年 逃亡する女
- 73年 絞殺魔の叫び
- 74年 クロアチアの春
- 76年 さらに、それでも高く……………短編







Novčić Sreće

Sreća a novca Jerko Sorić

第二次世界大戦開始直後、ドイツ軍はユーゴスラビアに進駐して同国に親独政権を樹立したが、民衆の大部分が各地で反独、反政府の動きを示すや俄然野獣の本性を現して同国を武力占領し、民衆の武装パルチザンと血生くさい戦いが繰り広げられていた。

ナチスの傀儡政権を樹立したクロアチアのファシズム政党ウスタシャは、「純粋なクロアチア人」による国家を標榜し、ヒトラーを真似た人種政策を行って強制収容所を作り、国内のセルヴィア人、ユダヤ人、ジプシー、更にはウスタシャに反対するクロアチア人に對してジェノサイドを政策として実行していた。特にセルビア人狩は凄惨であり、街中で殺害されるような事も起こっていた。

リルケを愛する若いクロアチア人の詩人マルコは、ウスタシャに見つからないように、思いを寄せるセルヴィア人の少女ナタリアとその家族を匿っていた。ある日、近隣の住民のナダから通報を受けたウスタシャが、マルコが居ない間に家に押し入り、ナタリアとその家族を収容所に連れ去られてしまう。マルコは、ナタリア達を助けるために、同じく収容所に家族を捕らえられたセルビア人を数人連れて収容所に向かう。

STORY

収容所についたマルコ達が目にした光景は、想像よりも悲惨で残虐なものだった。セルビア人やユダヤ人を流れ作業のようにウスタシャ達によって虐殺され、死体はまるでゴミのように重ねられていた。収容所からナタリアを救い出す方法を画策する中、マルコは収容所であつて幼馴染だったウスタシャ将校イヴァンに出会う。彼は望んでウスタシャになったのではなく、親の壓力からその身をウスタシャ軍投じていたのだった。マル

コはイヴァンの協力もありナタリアを救い出すことに成功する。しかし、彼女の家族はすでに處刑された後だった。マルコ達数名は、ファシズム政権ウスタシャと戦うパルチザンに参加することを決意する。イヴァンにナタリアを任せ、パルチザンとして戦地に向かうその日、ナタリアはマルコに「いつか生きていて良かったと思ったら好きなものを買いなさい」と2ディナール硬貨を手渡す。二人は別れを惜しみつつも、

マルコは戦地へ向かうのであった。その後、パルチザンの戦況は悪化していき泥沼化していく。43年のネレトヴァの戦いやスティエスカの戦いでは壊滅寸前にまで追いやられることになる。ナタリアは、マルコのこと心配で堪らず、イヴァンの目を盗み、マルコに会いに行こうとする。彼女に密かに想いを寄せていたイヴァンは、彼女を守る気持ちとマルコに對する嫉妬から彼女を捕らえてしまう。

その頃マルコは、仲間が戦場で死んで行く中、必死にナタリアから貰った硬貨を握りしめながら、戦っていた。状況は悪化していたが、テヘラン会議においてパルチザンに對する西側連合諸国による支援が決まり、またユーゴスラビア人民解放反ファシスト会議を興して終戦後のユーゴスラビアの統治体制の枠組みまで決定した。西側諸国からの補給、装備、訓練、航空支援を受け、またベオグラード攻勢ではソビエト赤軍の支

援も受けて、パルチザンはユーゴスラビア全域での統制を獲得するのだった。

パルチザンの勝利を経て、ウスタシャから街を解放することに成功したマルコ達だったが、村に戻ってもナタリアの姿はなく、マルコはイヴァンがナタリアを収容所に連れて行ったことを聞かされる。マルコは信頼していたイヴァンの裏切りに對する憎悪を胸に収容所へ向う。

収容所に向かう道中で、解放軍によって捕らえられたウスタシャ兵と遭遇する。その中にイヴァンを見つけたマルコは、怒りから彼を撃ち殺す。収容所はすでにドイツ兵やウスタシャによって解放されており、マルコはナタリアとの再会を果たすのだった。

村に戻ったマルコは、ナタリアからイヴァンが実は収容所内で自分を守っていたことを聞かされる。後悔と自分の愚かさに悲しみにくれるマルコだったが、ナタリアの言葉によって2人は再び人生を1から歩き出すことを決意するのであった。マルコの手の中には、しっかりと2ディナールコインが握られていた。

2人が抱き合う背後には、戦争で破壊し盡くされた町並みが広がるのだった。



■スタッフ

製作総指揮……………バーナード・T・ウェインスタイン
監督……………イェルコ・ソリッチ
脚本……………イェルコ・ソリッチ
……………アレクサンドラ・ジュロヴィッチ
撮影……………ラトコ・セクロヴィッチ
録音……………クルト・ネロ
編集……………フランコ・ボンダルチュク
音楽……………ヘンリー・ハーマン

■キャスト

マルコ……………ブレドラグ・ゴルボビッチ
ナタリア……………オーソン・コシナ
イヴァン……………フランコ・ネロ
マルチン……………セルゲーイ・ブリンナー
ヴラド……………ユル・ドーソン
モレツィ將軍……………アンソニー・ドラヴィッチ
ナダ……………ミレナ・ユルゲンズ
ローリング將軍……………クルト・コシナ
ダニカ……………シルヴァ・クリューガー
クランツァー大佐……………ハーディ・ネロ
リヴァ大尉……………フランコ・ロスマン
イヴァン……………ロイツェ・ウェルズ
チェトニック評議員……………オーソン・リヴァイ

■ STAFF

Executive Producer……………**Barnard T Weinstain**
Director……………**Jerko Soric**
Script Write……………**Jerko Soric**
……………**Alexandra Djurovic**
director of photography……………**Ratoko-Sekurovitchi**
Sound……………**Kurt Nero**
Editor……………**Franco Bondarchuk**
Music……………**Henry Harman**

■ CAST

MARCO……………**Predrag Golubovic**
NATALIA……………**Orson Cosina**
IVAN……………**Franco Nero**
MARTIN……………**Sergey Brynner**
VLADO……………**Yul Dawson**
GENERAL MAURELLI……………**Anthony Dorovich**
NADA……………**Mirena Jurgenz**
GENERAL ROLLING……………**Curt Cosina**
DANICA……………**Silva Kruger**
COLONEL KRANZER……………**Hardy Nero**
CAPTAIN RIVA……………**Franco Rosman**
JAEGER……………**Royce Wells**
CTETONIC COUNCULOR……………**Orson Rivai**

制作国

ユーゴスラビア／西ドイツ／アメリカ／イタリア

配給

イタリア (IAEC International Artfilm Company)

ドイツ (BFC Bayern Film Company)

日本 (東映 東京電影株式会社)



Novčić Sreće
Sreća a novca Jerko Sorić